

令和3年度A日程  
学力検査問題

①

国語

注意

- 1 開始の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答用紙は問題用紙の中に挟んであります。
- 3 問題用紙は表紙を除いて7ページで、問題は□一から□四まであります。
- 4 開始の合図があったら、まず、問題用紙および解答用紙の所定の欄に  
**志願先高等学校名と受検番号**を書きなさい。
- 5 答えはすべて**解答用紙の指定された欄**に書きなさい。

志願先高等学校名

高等学校

受検番号

□ 次の(一)～(六)の問いに答えなさい。

(一) 次の1・2の文の——線部の漢字の読みがなを、それぞれ書け。

1 早起きを励行する。

2 歓迎会を催す。

(二) 次の1・2の文の——線部のカタカナを、それぞれ適切な漢字に直して書け。

1 ツウカイな冒険小説を楽しむ。

2 荷物をアズける。

(三) 次の行書で書かれた漢字を、楷書で書いたときの総画数を**数字**で書け。

傲

(四) 次のア～エそれぞれの熟語の組み合わせのうち、二つの熟語の関係が類義語となっているものを一つ選び、その記号を書け。

ア 親切 — 厚意

イ 天然 — 人工

ウ 難解 — 平易

エ 保守 — 革新

(五) 次の詩を読み、後の1～3の問いに答えよ。

樹木

嫩<sup>わか</sup>葉は光<sup>ひか</sup>りともつれあい。

くすぐりあい。

<sup>1</sup>陽がかけると不思議<sup>1</sup>がつてきき耳をたて。

そよ風がふけば。

枝々は我慢が利<sup>き</sup>かずざわめきたち。

毛根たちはポンプ<sup>2</sup>になり。

駆け足であがり。

枝にわかれ。

葉っぱは恥も外聞もなく裸になり。

限<sup>ま</sup>どりの顔で。

歓声をあげ。

(草野心平『草野心平詩集』による)

(注) 限どり：歌舞伎で、役柄の性格や表情を強調するためにする化粧。

1 詩の中の——線部1の「陽がかけると不思議がつてきき耳をたて」を単語に区切ったとき、助詞はいくつあるか。**数字**で書け。

2 詩の中の——線部2の「なり」の活用形を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 未然形                      イ 連用形

ウ 終止形                      エ 命令形

3 詩の中で用いられている表現についての説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 樹木の生命感あふれる様子を、擬人法を用いて表現している。

イ 嫩葉のみずみずしさを、擬態語を用いて効果的に描いている。

ウ 枝々が風に揺れる涼やかなさまを、反復を用いて印象づけている。

エ 葉っぱの成長の力強さを、五音と七音の言葉を重ねて強調している。

- (六) のぞみさんが所属する新聞部では、体育祭の報告をする新聞を発行することになり、のぞみさんは「鳴子踊り」の記事を担当することになった。次は、その記事の【原稿】と、【原稿】についての【部員たちの発言】である。これらを読んで、後の1～3の問いに答えよ。

【原稿】

## 心をひとつに鳴子踊り

本校恒例の鳴子踊りが、今年も披露された。皆で練習を重ね、全力を出し切った踊りを、各組のリーダーが振り返ってくれた。

I

午前の部の最後は、本校の伝統的な取り組みの一つ、鳴子踊りだった。三年生は、夏休みの間に振り付けを創作する。そして、二学期が始まると同時に下級生に教える。約二週間、皆で練習を重ねた。体育祭ではその成果を発揮しました。

保護者や地域の方々からは、「踊りがそろつていて美しかった」「どちらが優れているか決められないほど、どちらの組も上手だった」と好評で、「毎年、楽しみにしているので、ぜひ続けてほしい」といううれしい言葉もいただいた。

赤組と青組のリーダーが、鳴子踊りを振り返り、思いを文章にまとめてくれた。

II

### 赤組リーダー

小林さん

私たち赤組のテーマは「炎」でした。赤といえば、燃えさかる炎。炎のもつ美しさと力強さを伝えられるよう、振り付けに工夫を凝らしました。曲の中ほど、全員が中央に集まり、一瞬で全方向へ広がるところが、最大の見せ場であり、特に練習を重ねてきた部分でした。

皆が団結して、納得のいく踊りを披露できたことが、一番の思い出です。

III

### 青組リーダー

中山さん

私たち青組は、なかなか意見がまとまらず、限られた練習期間の中で、踊りを完成できるのか、とても心配でした。だから、弱音を吐かずについてきてくれた下級生には、とても感謝しています。ありがとう。

青組のテーマであった「海」。さまざまな川が合流して、大きな海となるように、一人一人が力を合わせて、最高の踊りを見せることができました。

【部員たちの発言】

- A IIの文章は、テーマのイメージを振り付けにどう生かしたかが書かれているので、振り付けの工夫がわかりやすいね。
- B IIIの文章は、練習での苦労を乗り越えて力を合わせることができた様子を、テーマのイメージと重ねて、よく書けているよ。
- C IIIの文章には練習での苦労が書かれているから、下級生の感謝の言葉が、より感動的に読み手に伝わるよ。
- D どちらの組も、本番では皆の踊りがひとつにまとまったことがIIとIIIの文章からわかるね。それが見出しにも生かされているよ。

- 1 のぞみさんは、【原稿】中のIの——線部の「どちらが優れているか決められない」を、簡潔に慣用句で表すことにした。その慣用句として最も適切なものを、次のA～Eから一つ選び、その記号を書け。

- ア 右に出る者がいない      イ 背に腹はかえられぬ  
ウ 類は友を呼ぶ              E 甲乙つけがたい

- 2 のぞみさんは、【原稿】中のIの部分では常体に敬体が交じっていると気づき、直すことにした。Iの部分から、敬体で書かれた一文を探し、常体に直して一文全部を書け。

- 3 【部員たちの発言】中のA～Dから、【原稿】に基づいた発言となっていないものを一つ選び、その記号を書け。

□ 次の文章を読み、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

急速に進む多文化社会、そこで求められるのは、自律、そして自分の言動に責任を持つことなのですが、日本人にとっては、これはどういう意味をもつのでしょうか。均質な人間の集団では、頼り頼られるといった「べつたりした人間関係」が生じやすいのですが、多文化社会では自律と自己責任を基礎とした人間関係が大事です。均質な人間の集団では、相互依存がよりうまく機能しますが、行きすぎると、他人に甘えすぎたりするものです。甘えすぎが高じると、とかく□の所在が不明になったり、息苦しいまでもたれあいの人間関係が生まれてきます。日本の社会はどちらかと言えばこれに当たります。日本では、相互依存の関係が重視されるあまり、自律を大きな価値として位置つけてきませんでした。ですから多くの日本人にとって、自律すること、自分の言動に責任を持つことは、ひとつの大きな課題と言えるかもしれません。

一方、自律を重視する傾向が行きすぎると「相互依存は良くない」という考えを導きかねません。ともすると社会もギスギスした社会になりがちです。しかし、人間は一人で生きていくことができないので、集団を形成しその中で生きていく動物ですから、相互依存こそが人間社会の基盤なのです。したがって、むしろ、相互依存ができることは理想なのです。つまり、自律と相互依存、どちらも不可欠な能力であって、そのバランスが鍵と言えるでしょう。

一見、「自律」と相反するように見える「相互依存」ですが、この相互依存は、どちらかと言えば日本人には慣れ親しんだ考え方、やり方です。「人」という漢字を小学校で学ぶときに、人とは支えあって生きていくものである、との説明と共に漢字を学んだ人も多いことでしょう。

私が以前、米国で同じ会社（日本企業と米国企業との合弁会社）で一緒に働いたアメリカ人女性が30年前を振り返り「相互依存」についてこうつぶやいていたのが印象的です。「あの会社の良かったことは、相互依存を許されていたことだ。」私にとって「相互依存」は当たり前前の感覚でしたので、その良さに気づくこともなかったわけですが、アメリカの会社で働いてきた彼女には、日本的なこの合弁会社で「相互依存」が許される風土に出会い、新鮮に映ったようでした。彼女の発言に、私は軽い感動を覚えたものです。そして、日本人であることを誇らしく感じました。

このように私たちは、私たちにとって当たり前のことは何の意味も価値もないように捉えているのですが、または意識さえないのが普通なのですが、異文化の人の目を通して初めてその意味や価値が見えることはよくあるものです。彼女の感想から気づいたのですが、日本人は「相互依存を許してやる能力」があると言っても言いすぎではないと思います。

一方で、日本人が「自律」の能力をより高めていく、養っていくことが今後の多文化社会で生きていくには大事なことです。「自律すること」を最高の価値観のひとつとして社会に位置づけている文化も少なくありません。個人主義の強い文化、例えばスイス系ドイツ人やアメリカ人などがそうです。将来は、このような価値観を持った人たちと隣人となったり、机を隣り合わせて仕事をすることになるかもしれません。インターネットでそういう人たちと交渉することになるかもしれません。そういう文化で育った帰国子女が同級生になるかもしれません。このような環境に生きている私たちとしては、相互依存の能力を維持しながら、かつ「自律していくこと」をもうひとつの大事な価値観として、これから心がけていく必要があるでしょう。

「相互依存」を一つの基軸とする日本の社会観では、人間関係を網にたとえたりします。自分という人間は、網の目のひとつであると。一見、自律とは関係のない感覚に思えますが、はたしてそうでしょうか。むしろ、こう考えられませんか。そのひとつの網目をしっかりと保つこと、まさにこれが「自律する」ということではないかと。自分という網の目が破ければ、隣の網目にも悪影響を

及ぼすことは必至です。ひと目ひと目の網がしつかりと張ってあればこそ、網が網として機能することになります。ただひとつの網の目では魚や鳥を捕まえることはできませんが、ひと目ひと目がしつかりと破けずにつながっている状態の網でならば、一匹どころか大漁も夢ではありません。このように、これからの世の中は各個人が自律してこそ、よりバランス良く健全に相互依存ができていくのだと思います。

(山本喜久江・八代京子『多文化社会のコミュニケーション』による)

(注) 合弁会社…外国資本と国内資本との共同出資で設立され、運営される会社。

基軸…物事を中心となるもの。

必至…必ずそうなること。

(一) 文章中の□に当てはまる言葉として最も適切なものを、文章中から漢字二字でそのまま抜き出して書け。

(二) 文章中の——線部1に「自律と相互依存、どちらも不可欠な能力であつて、そのバランスが鍵と言えるでしょう」とあるが、筆者はここでどういうことを述べようとしているか。その内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 自律することが多文化社会では求められているが、自律ばかりが重視されては人間関係をうまく結べないので、当面は自律よりも相互依存を重視するべきだということ。

イ 自律と相互依存を両立させることがこれからの社会では大切だが、実際には自律がまったく顧みられていないので、相互依存を重視するのは慎んだほうがよいということ。

ウ 自律と相互依存は対立するもののように感じられるが、国際社会ではどちらも重視されているので、日本の社会でも均衡を保てるようになることが大切だということ。

エ 自律を重視しすぎると相互依存の否定につながるが、相互依存は人間社会を支える土台となるものなので、自律と相互依存のつり合いを取ることが重要であるということ。

(三) 文章中の——線部2に「彼女の発言に、私は軽い感動を覚えたものです」とあるが、その理由を筆者はどのように述べているか。その内容を、「彼女の発言によつて」で書き始め、「能力」の言葉を必ず使つて、六十字以上八十字以内で書け。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

(四) この文章の内容と構成を説明したのものとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 初めに二つの社会の価値観を例にして多文化社会の問題点を指摘し、次に日本の社会の基盤となる考え方の意味をエピソードを交えながら説明し、最後に日本の社会が多文化社会の価値観の影響を受けることのないように具体的な方策を提案している。

イ 初めに二つの社会の価値観に触れて人間関係を構築することの難しさを述べ、次に多文化社会と日本の社会の考え方の良さについてそれぞれエピソードを交えて説明し、最後にこれからの国際社会での望ましい人間関係のあり方を提案している。

ウ 初めに二つの社会の価値観を対比して現代日本の課題を提示し、次に日本の社会の考え方がもつ良さについてエピソードを交えて語り、最後に比喩を用いながら二つの価値観の関係性を説明して多文化社会の中での日本人らしいあり方を提案している。

エ 初めに二つの社会の価値観を比較してこれからの国際社会のあるべき方向を示し、次に日本の社会に変化が必要な理由についてエピソードを交えながら語り、最後に日本人が多文化社会の中で生きていくために留意すべきことを提案している。

三 次の文章は、哲学者の岡本裕一郎さんと広告業に携わる深谷信介さんの二人による対談の一部である。この文章を読み、後の(一)・(二)の問いに答えなさい。

**深谷** 広告の仕事をしていると、「記憶」について考えることがしばしばあります。広告の第一歩が人々に記憶してもらうことだからです。人々の記憶になんらかのイメージを残す、さらには刻みこむことが広告の役目と考えれば、いまという時代は、人々の記憶がどんどん短命化している時代と言えると思います。

いま、ぼくらは何かを記憶するというとき、その対象や意味内容をじかに覚えておくというより、外部化してそれが入っている引き出しを覚えておくという感じですね。でも、その引き出しもそのうち数がたくさんになっていつて、引き出しのあつた場所を忘れてしまう。

デジタルテクノロジーによって情報量は圧倒的に増えていくけれども、人間の情報処理能力はあるところで限界になるので、すべての情報を追うことはできません。しかし、情報のほうは新しい情報がどんどん追加されながら過去の情報もどんどん上書きされて、そのスピードもどんどん速くなっています。結果、人はどんどん情報を忘れていつて、上書きされた最新の情報しか見えなくなっているのだと思います。

でもこれは逆の見方をすれば、忘れるからこそ、新しい情報を受け取ることができるとも言えるのであつて、忘れることの価値はすごく大きいと思うんです。ですから、デジタルテクノロジーによる情報の上書きの高速化と、人間の記憶の短命化は、表裏の関係にあるんですね。

たとえば企業不祥事を考えても、10年以上前であれば、不祥事を起こした会社に対してメディアバッシングは少なくとも3カ月は続いていたと思います。ところがいまは、企業不祥事がいわば常態化し、個々のニュースが繰り返し上書きされていくことで、メディアバッシングが続かなくなり、どんどん忘れられていきます。

**岡本** 記憶という概念も古代ギリシアからさまざまな議論を呼んできました。それは、記憶が重要な意味をそなえているからにはほかなりません。まず記憶はわたしたちのアイデンティティを構成するものですね。記憶がなければ自分が自分であるということも確認できません。記憶があるから約束もできるし責任をとることもできる。いずれにしても人間であるためには記憶がどうしても必要なのです。

プラトンもアリストテレスも記憶についていろいろ言っています。一つポイントなのは、プラトンもアリストテレスも「記憶」と「想起」を区別して考えていたことです。記憶は忘れられないで人間につきまといつているもので、人間は受動的にこの記憶から触発され情動を揺さぶられる。いつぼうの想起は、記憶のなかから重要なことをよみがえらせようという能動的な知性の働きとされていました。プラトンは『メノン』のなかで、「探求するとか学ぶとかいうことは、じつは全体として、想起することにはほかならないからだ」と言っています。

さてその記憶ですが、情報が爆発的に増えることで人間の知的活動がさまざまな影響を受けるなかで、当然記憶のあり方や記憶の仕方も変化している。広告にとって今後人々の記憶のあり方がどう変化していくかは、たしかに重大なテーマですね。

わたしのまわりで起きていることで一つお話しすると、たとえば一冊のテキストをどう読むかというとき、そのテキストがどのように解釈されているかというのでいろいろな解釈本を追いかける人と、テキストに没入してじっくり読む人と、二つのスタイルの人がいます。いまの時代の流行は、いうまでもなくたくさんの解釈本をサーベイするほうです。そうでないと基本的に評価されません。

サーベイの結果、これが現在の研究の水準であると現状を押さえた上で、問題を新たにつくりなおして、議論をするというパターンです。これは、スタイルとしては非常に賢く見えるのですが、おもしろいかというところもおもしろくありません。

では、昔ながらのテキストをじっくり読むというほうが、優れた成果につながっているかという点、それもそんなことは一切なくてですね、こちらはこちらで評価の壁に突き当たります。テキストをじっくり読むと細かな部分がかつたり、そのテキストの文脈的な意味を一生懸命考えたりするんですが、それを論文に書いても、「なんだ君一人が理解しただけじゃないか」と言われてしまい、それがいったいどれだけの価値があるかを明示するのは難しいわけです。

しかし、視点をちよつと未来に向けてみると、正直な話、どっちのタイプが伸びるかという点、テキストをじっくり読む人のほうが伸びていく。このことの背後には、記憶と時間の関係、そして記憶と想起のメカニズムが潜んでいるように思うのです。

**深谷** とても興味深いです。どういうことでしょうか。

**岡本** まず昔の哲学者の本は、基本的にはそういうかたち、つまりじっくり根気強く読まれるようにできているということがあります。要するに中身が非常に深いので、何回読んでもそのたびに違った理解ができ、新たな発見があるということです。ですので記憶の質が高まり、何回も読むなかで記憶と想起が繰り返され、想起の確度が高まるようになるのではないのでしょうか。そのためには時間も必要で、記憶は時間と切り離しては成り立たないものなのです。

(岡本裕一朗／深谷信介『ほんとうの「哲学」の話しよう』による)

(注) アイデンティティ…自己が他と区別されて、ほかならぬ自分であると感じられるときの感覚や意識。  
プラトン…古代ギリシアの哲学者。 アリストテレス…古代ギリシアの哲学者。  
サーベイ…調査。

(一) 文章中の——線部1に「情報の上書きの高速化と、人間の記憶の短命化は、表裏の関係にあるんですね」とあるが、深谷さんは、人々の記憶が短命化していることについて、ここでどういうことを述べているか。その内容を、次の**条件1・2**にしたがって書け。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

**条件1** 全体を六十字以上八十字以内にまとめること。

**条件2** 解答は「今の社会は」で書き始めること。

(二) 文章中の——線部2に「一冊のテキストをどう読むか」とあるが、岡本さんは、どういう読み方を肯定的に捉えているか。また、そのような岡本さんの考えについて、あなたはどのように考えるか。次の**条件1・3**にしたがって書け。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

**条件1** 全体を八十字以上百字以内にまとめること。

**条件2** 最初に、岡本さんの考えを説明し、次に、それに対する自分の考えを書くこと。

**条件3** 自分の考えについては、岡本さんが述べている内容に触れながら、自分がそう考える理由を明らかにして書くこと。

四 次の文章を読み、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

ある修行者、行き暮れて、わづかなるあやしのしづの屋に、一夜宿を借りける。主情深き者にて、「結縁に」とて貸しける。ころは冬ざれの霜夜なれば、手足ごこえてかがまりければ、わが息を吹きかけてあたためけり。ややあつて後、熱き飯を食ふとて、息をもつて吹きさましければ、主此由を見て、「怪しき法師のしわざかな。つめたき物をば熱き息をいだしてあたため、熱き物はひややかなる息出してさまし侍るぞや。いかさまにもただ人のしわざとも見えず。天魔の現じきたれるや」とおろかにおそれて、暁がたにおよびて追ひ出しぬ。

そのごとく、至つて心つたなきものは、わが身に具足したることをだにもわきまへず、ややもすれば惑ひがちなり。これほどの事をだにわきまへぬやからは、能き事を見てはかへつて悪ししと思ふべき。かねてこれを心得よ。これは、うち聞けば、おろかなるやうなれども、人の世にあつて道に迷へる事、かの主が、人の息の熱きとぬるきと、わきまへかねたるにことならざるものなり。

(『伊曾保物語』による)

(注) わづかなるあやしのしづの屋に…小さな粗末なあばら屋に。

「結縁に」とて…「善行をして、成仏の縁を結ぶために」と言つて。

怪しき法師のしわざかな…奇妙な僧の行為であることよ。

いかさまにも…どうしても。

天魔…悪魔。

悪しし…悪い。

かねて…前もつて。

- (一) 文章中の~~~~線部の「わきまへぬやからは」を現代仮名遣いに直して、~~~~線部全部をひらがなで書け。
- (二) 文章中の——線部ア、イ、ウの言葉のうち、行為をする者が他の三つとは異なるものを一つ選び、その記号を書け。
- (三) 文章中の——線部に「わが身に具足したること」とあるが、この文章の第一段落で述べられている話における「具足したること」とは何か。文章中から一字でそのまま抜き出して書け。
- (四) この文章で述べられている内容の説明として最も適切なものを、次のア、イ、ウから一つ選び、その記号を書け。

ア 主が修行者の行為を見て悪魔だと見破つたのは、日頃から質素な生活をしてきた誠実さのためであるが、人が世の中にあつて道に迷うのも、この主の誠実さと本質は同じであると述べている。

イ 主が修行者の行為を見て悪魔だと決めつけたのは、善行をして自分だけが成仏の縁を結ぼうとした身勝手さによるが、人が世の中にあつて道に迷うのも、この主の身勝手さと本質は同じであると述べている。

ウ 主が修行者の行為を見て悪魔だと恐れたのは、自分の体のことについてさえ理解していなかった愚かさのためであるが、人が世の中にあつて道に迷うのも、この主の愚かさと本質は同じであると述べている。

エ 主が修行者の行為を見て悪魔だと間違えたのは、よいことを見ても悪く考えてしまうような臆病さによるが、人が世の中にあつて道に迷うのも、この主の臆病さと本質は同じであると述べている。